1. はじめに

(1)計画策定の背景

土岐市では、平成22年度に「土岐市地域公共交通総合連携計画（以降「連携計画」という）」を策定し、これまで公共交通の活性化・再生に取り組んできました。特に、旧町村ごとに運行されて路線の重複が多く見られ利用も低調であった「地域別線」の見直しを行い、路線を短くする代わりに便数と乗継を改善しました。その後、更にデマンド型交通の「のってこ」へと再編を行い、現在に至っています。

こうした中で、民間路線バスの利用者数など連携計画で設定した目標に届かない指標があったり、連携計画策定時の理念から変化が見られるようになったりするなど、新たな課題が見られつつあります。

そこで本計画は、次の5年に向けて、公共交通を活性化・再生していくために策定するものです。

(2)計画の期間・区域

計画の期間：　平成２８年度～平成３２年度（５カ年）	**計画の区域**：　土岐市内

2. 調査の流れ

(1)市全体の課題整理

今回の調査では、かねてから市内で要望があった土岐市駅～下石～駄知～肥田～土岐市駅の巡回路線の有効性を中心に、調査を行いました。潜在・顕在ニーズを明らかにした各種調査結果を市内８地域ごとに分類して「地域別カルテ」としてとりまとめ、市全体としての課題を整理しました。

(2)地区内の課題整理(駄知地域をモデル地域として)

今回の調査では、他地域に比べて人口減少が大きく、高台に住宅団地のある駄知地区をモデル地区として選定し、地域内部における交通の課題について調査を行いました。

具体的には「③記名式全戸アンケート」や「⑤民生委員による交通弱者アンケート」を通じて交通弱者を抽出し、その自宅への訪問等を通じて生の声を聴取しています。

(3)高校通学の課題整理

民間路線バスの利用増に土岐商業高校や土岐紅陵高校の教諭へのインタビューを行い、課題を整理しました。

図表　調査の枠組み

3. 地域公共交通の課題整理

(1)市全体の課題整理

○少子高齢化に伴う交通需要の変化

・生産年齢人口の多かった時代においては、各地域から駅までを結ぶ路線が重視されました。
・少子高齢化が進んだ結果、駅に向かう需要は減少し、代わりに昼間に医療・買い物施設を結ぶ需要が高まりつつあります。
・これまで民間路線バスは大きな路線変更を行っていないことから、高齢者のニーズを拾いきれていない可能性があります。

○土岐市駅での民間路線バスの分断

・土岐市では、中央丘陵を囲むように線状に住宅・商業地が拡がり、それらを民間路線バスがつないでいます。
・ルート・ダイヤをみると丘陵地を半周ずつ結んでおり、駄知北部や肥田の住民が土岐津へ、下石や妻木の住民が肥田北部へ行きづらいものとなっています。
・こうした駅へのアクセスは、通勤・通学利用の多かった時代に適した設定であったかもしれませんが、高齢者の買い物・通院には十分でないと考えられます。
・バス利用者アンケート等からは土岐市駅等での乗継利用が一定程度確認できたため、ダイヤ調整や直通便の設置等の利便向上が図られれば、新たな需要を獲得できる可能性があります。

(2)地区内の課題整理(駄知地域をモデル地域として)

○地域に大きな医療・買い物施設が存在しない

・駄知地域では、以前はスーパーマーケットが存在していたが今では廃業してしまうなど、日常の買い物に支障が出ています。
・また、クリニックは見られますが病院はないため、通院にも地域外に移動する必要があります。

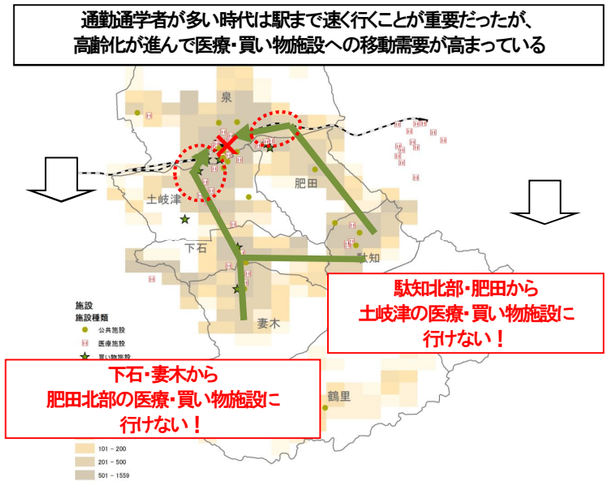
○民間路線バスの営業所があるにもかかわらず、交通弱者が200名程度存在する

・当地域は、東濃鉄道の土岐営業所・車庫を有し、市内他地域に比べて便利な地域と言えます。
・しかし、民生委員による調査の結果、約200人の交通弱者が存在することが明らかとなりました。
・これらの多くは高齢の女性で、インタビュー結果から、自家用車や免許を持っておらず、地域外のスーパーの送迎バスを利用して何とか日々の生活を過ごしているようでした。

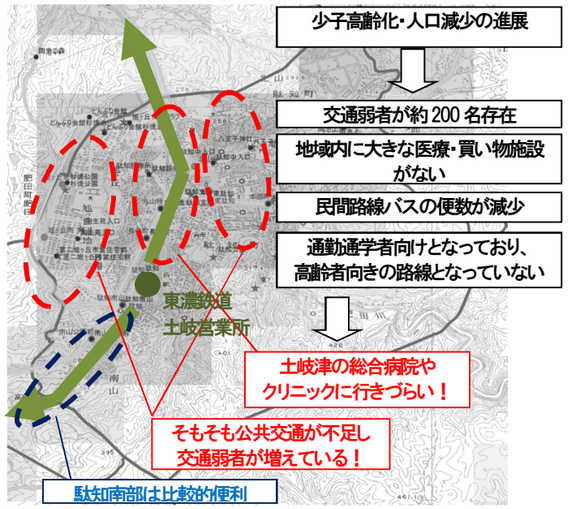
○地域内における「南北格差」

・土岐営業所は地域内南部に位置しており、最も便数が多く総合病院・商業高校・紅陵高校も通る「土岐＝下石＝駄知線」はあまり町内を通っていません。
・そのため、旭ヶ丘や東駄知の住民にとっては、土岐市駅や総合病院や商業高校に向かうには乗継が必要となります。

図表　市全体の課題(土岐市駅での分断)



図表　駄知地域内の課題



(3)その他

・高校通学や地域別での課題を整理しました。

4. 基本的な方針と施策・事業

(1)基本理念

本計画では、均一のサービスを目指すのではなく、困っている住民一人ひとりに耳を傾け、その人たちの需要をまとめることで「お出かけ」の機会を提供します。また、それが交通事業者の売上に貢献するような仕組みとなるよう、交通事業者を中心として地域・行政が創り上げることを目指し、以下のような基本理念とします。

「お出かけ」に困る一人ひとりによりそい、
交通事業者と地域・行政が一体となって
民間活力を活かし、自由な「お出かけ」を実現します。

(2)基本方針

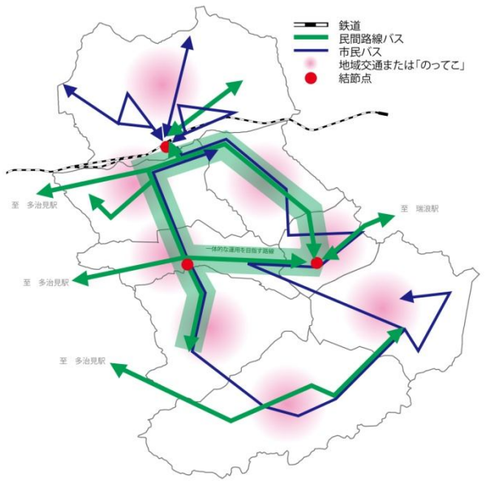
【方針１】　民間路線バスの利便性を高め、自由なお出かけを支援します

【方針２】　交通弱者一人ひとりの参画により、「地域交通」を創ります

【方針３】　高校生の安心・安全な通学手段を、高校生と一緒に創ります

【方針４】　利用促進に向けた関係者の役割明確化と連携強化を図ります

図表　将来の公共交通ネットワーク図



(3)具体的な事業

基本方針	具体的な事業	実施主体
【方針1】 民間路線バスの利便性を高め、自由なお出かけを支援します	①土岐市駅での分断解消に向けた実証実験の実施	市・交通事業者
	②「乗継案内」の掲示･配布　※方針4⑥との協調実施	市・交通事業者
【方針2】 交通弱者一人ひとりの参画により、「地域交通」を創ります	①地域交通の構築（のってこの代替として）	駄知の組織委員会
	②地域交通の全市への展開	各地の組織委員会
	③のってこの周知拡大	市・運行事業者
【方針3】 高校生の安心･安全な通学手段を、高校生と一緒に創ります	①高校の登校時間やイベントに合わせたダイヤ調整	市内高校・市・交通事業者
	②オープンキャンパスにおけるバスの紹介	市内高校・市・交通事業者
	③雨天時のバス利用促進	交通事業者・土岐商業高校・市
【方針4】 利用促進に向けた関係者の役割明確化と連携強化を図ります	①バスの利用状況の定期的な発信	市
	②協議会委員による1日乗車体験	協議会委員
	③バスふれあいイベントの開催	協議会委員・交通事業者
	④観光施設との連携強化	市
	⑤市民バスにおける「目安箱」の設置とカイゼン活動の徹底	市
	⑥公共交通マップの作成　※方針1②との協調実施	市
	⑦新規車両の購入	市
	⑧市民バスの愛称募集･キャラクターの作成	市

方針1の主要事業

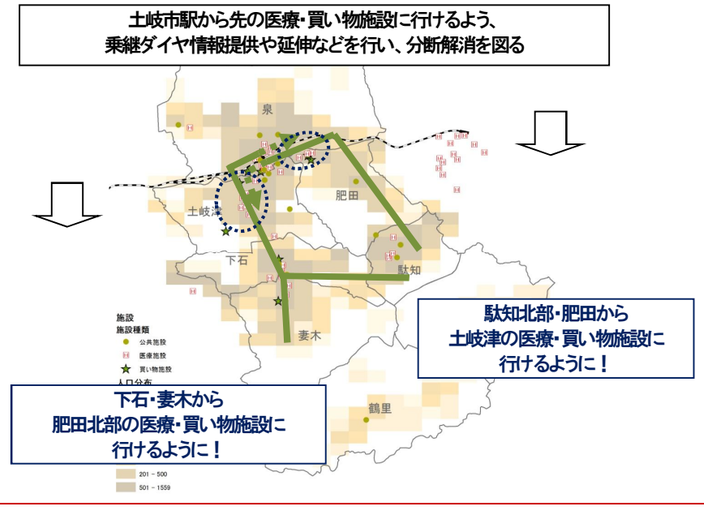
土岐市駅での分断解消に向けた実証実験の実施

これからは高齢者の移動需要を取り込んでいく必要があり、駅だけでなく買い物・医療施設へのアクセス性も求められるため、路線の見直しを図って行く必要があります。

具体的には、土岐市駅が終点となっている「土岐＝下石＝駄知線」「駄知線」「土岐=妻木線」の３路線について、将来的に一体的な運用を目指し、可能な限り既存のダイヤ・ルートを残しつつ、情報提供や運賃面の変更による擬似的な巡回路線の構築による実証実験を行うこととします。

また、この実証実験の実施に当たっては、民間路線バスの意義を改めて市民に周知する機会とし、単に利用者だけでなく全市的な周知を図るものとします。

図表　土岐市駅での分断解消のイメージ



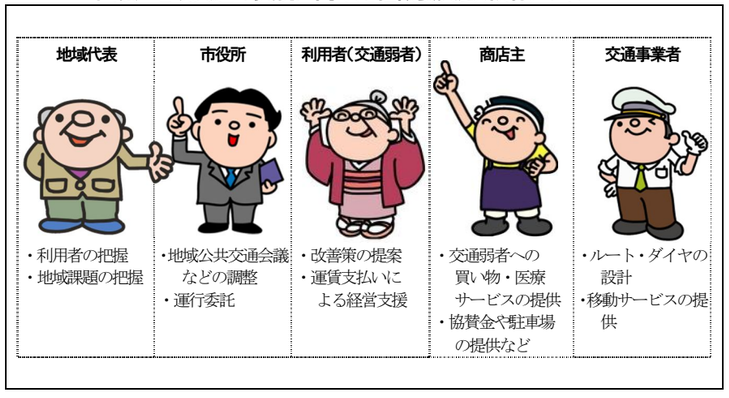
方針2の主要事業

地域交通の構築（のってこの代替として）

地域の交通弱者が気軽に利用でき、自由な「お出かけ」が実現できるような地域交通を構築する必要性がある地域については、市内で均一的なサービスが求められる「のってこ」の廃止を前提に、新しい交通を検討していきます。

参加者には「地域交通」のイメージがわかないことも予想されることから、先進事例の視察を行う等、市から全面的な支援を行います。

図表　地域交通の実現に向けた組織委員会(仮称)のイメージ



方針3の主要事業

高校の登校時間やイベントに合わせたダイヤ調整

民間路線バスのダイヤは、ＪＲのダイヤに応じて設定されていますが、便によっては高校生の登校にはやや遅いという意見や、テスト期間においては下校時間が早まるためバスダイヤも早くしてほしいとの要望も根強い状況です。

こうした要望に素早く対応するため、年に１度、市内３高校からの要望を受け付けるようにします。

オープンキャンパスにおけるバスの紹介

東濃地域の高校では毎年夏休み期間中に、オープンキャンパスとして中学３年生が高校に来て体験できる日が２日間設けられています。

この機会を活用するために、民間路線バスのダイヤやルートを紹介するためのパネルやチラシを市と交通事業者が一体となって作成し、土岐市内の３高校において、オープンキャンパス時に展示・配布等を行うとともに、公共交通に対する要望を受け付けることで改善に努めます。

雨天時のバス利用促進

高校生は、雨天時においては傘差し運転禁止のため、徒歩による通学が多くなります。

そこで、「雨天時定期券」や「オープンキャンパスでの紹介」などでの利用促進について検討します。

方針4の主要事業

協議会委員による1日乗車体験

協議会開催日などに合わせて、委員全員でバスに乗る日を年１回以上設けます。その際、可能な限り委員それぞれの所属機関にも利用を呼び掛けることで、市内への広がりを期待します。

この活動は、市広報やケーブルテレビ等でアピールすることとします。

バスふれあいイベントの開催

高齢者の集まりやすい地元イベント等への「公共交通ブース」の出展を図ります。

バスやのってこの車両を出展することで、バスの利用説明や孫世代との乗車体験に活用するなどが考えられます。

特に、東濃鉄道の鉄道時代の思い出パネルも展示することができれば、高齢者に当地域の交通について改めて考えてもらう事につながります。

図表　駄知鉄道の様子(土岐口～下石)